

<p>1. 健康で楽しく学ぶ</p>	<p>■楽しく学んで健康に！                  ■心の健康…柱として違和感がある。「心の健康」「身体健康」の2つに分ける必要がない。                  ・心の健康、前回の提言書では外したが、役所が入れた。                  ・わかりにくい。心の健康とは？                  ・生涯学習活動している人＝長寿（長野県の例）                  ・「心」という言葉。見えない。学習⇒心。                  ・生涯学習 こんなにいい事がある。                  ・多くの人。集団と付き合う⇒心、身体。                  ・バーチャルよりリアル 実体験。                  ・話しをする機会が少ない（メール、インターネット）。</p>
<p>2. いくつになっても学ぶ</p>	<p>■家庭教育学級知らない。(男性)                  ・家庭教育学級 子どもがいる人しか知らない。                  ・家庭教育学級、「教育」という言葉は、使わない方がよい。                  ・母親は、小学校6年まで1つは役員をやる。                  ・母親の負担。父親の参加。                  ・言葉がかたい。                  ・世代間交流。                  ・世代間 親子、高齢者 ―― 若者。                  ・新たな仕組み。イベント。                  ・世代に応じた学び。                  ・2020年小学校でプログラミング導入。                  ・防災（かるた、お泊り訓練）                  ・親に言ってやりたい。子に対してのセミナー。                  ・今の時代に合った仕掛けづくり。                  ・家族の中の交流。                  ・世帯の中の話し合い。きっかけづくり。                  ■生さがいを持って、幸せに過ごすために。                  ■いくつになっても学べるような環境。                  ■幸せになるためのガイドラインづくり（きっかけづくり）</p>
<p>3. 学ぶ面白さ、楽しさを知る</p>	<p>■『一芸に秀でた人』言葉が難しい。プロのこと？上手な人？                  ・在住で有名な人を検証した。いるにはいるが、交流は難しい。                  ■『交流』表現を変える。                  ・有名になった人。何かしたいと思っているのか？                  ・プロの人がボランティアで交流。                  ・プロデュースできる人材がほしい。                  ・オリンピック選手からのメッセージ。夢を与える。地元産。                  ■書いてあることが、細かすぎる。(全体)                  ■楽しさを知る⇒ワールド・カフェ。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館。体験とセットで。</li> <li>・子どもはこうあるべきという、制約をつくってしまった。</li> <li>・今の子どもに合った地元の愛し方。島田の良さ。</li> <li>・例えば、橋の名前を調べる。</li> <li>・65才からの地域デビュー。</li> <li>・自然体験教室 = ガンバ</li> <li>・初倉西部ふれあいセンターの子どもの居場所づくり。</li> <li>・学びたい人とボランティアをしたい人を結びつけるシステムは必要。</li> <li>・単発イベントのボランティア⇒通年ボランティアに</li> <li>・上手につなげていく方法を考える。</li> <li>・楽しさとは、体験をすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人づくり 『意義』をまとめる。</li> <li>■何のために生涯学習があるのか(前文)</li> <li>■世代ごとのライフステージで何をやるのかモデルを示す。</li> <li>■人生マップ</li> <li>・『推進』『活用』、やらせるような表現になっている。</li> <li>・子どもが集団で遊ぶ⇒縦社会(異学年)</li> <li>・自由に集まって遊ぶ</li> <li>・健康寿命⇒小さいころからの生活が大切。</li> <li>・子どもの頃の経験を活かす。</li> </ul>
<p>4. 生きがいのある生活</p> <p>(1) 楽しく学んで豊かな生活 ①金谷宿大学・しまだ楽習の充実</p> <p>(2) 趣味を持つ ①趣味を広げる学習の推進 ②余暇時間の活用 ③読書活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少年団⇒子ども会、ボーイスカウト</li> <li>・子どもの頃から集団で行動する。横のつながり。</li> <li>・感性</li> <li>・ひとり2役、ひとり3役。マルチキャリア。</li> <li>・掛川子ども読書計画。</li> </ul>
<p>5. 社会的に自立する</p>	<p>(1) 社会の一員となるための学習 ①体験学習・各種講座の開催</p>

1. 家庭での和・輪

(1) あたたかい家庭

- ① 親子で参加できる行事づくり
- ② 参加型・体験型の父親・母親学級

- ・地域の行事に親子で参加⇒現状では時間がなく、参加が少ない。
- ・地域の行事に参加者が少なくなっている。
- ・地域の人と一緒に過ごす時間。
- ・母親、父親学級 具体的にどうなっているか？活性化させる。
- ・父親とのふれ合い(少ない) 少子なので、家族で過ごす。
- ・近所づきあい(少ない) イベントを。難しいのか！！
- ・家庭の日、第3日曜日イベントを。難しいのか！！
- ・家庭の日をアピールする。また利用する。
- ・「家庭の日」アピールが不足。
- ・食事を一緒にする。朝食。
- ・1日1回家族で食事。
- ・楽しく食卓を囲む。
- ・コミュニケーション不足。
- ・家庭の会話を大切に。コミュニケーション。
- ・毎日声をかける時間。
- ・あいさつをかけるなど、言葉の掛け合いが少ない。
- ・みんなと一緒に出かける日。
- ・子どもと本読みをする。

2. なかまづくり

(1) サークル活動

- ① サークル活動の支援
- ② スポーツ・文化活動の振興
- ③ 総合型地域スポーツクラブの設立

(2) 異世代の交流

- ① フェスタしまだ・夢づくり展
- ② 世代間交流行事への参加

(3) 国際交流

- ① 市内在住外国人との交流
- ② 姉妹・友好都市交流

- ・同世代の交流が必要。
- ・同世代の交流も！
- ・総合型地域スポーツクラブの現状は？
- ・地域の文化。際⇒世代交流になってゆくのではないか。
- ・祭、運動会等の地域の行事。参加者(少ない)。行事自体がなくなる。
- ・クロスメディア、世代間交流行事の参加。地域活動。
- ・高齢者のおどり、銭太鼓、合唱等の支援。合同発表の場。
- ・各活動、行司の告知の仕方。拡散方法。
- ・大祭を利用し、なかまづくりを。
- ・自己学習を相互学習に広げていく活動。
- ・活動のPR、発表の場づくり。
- ・国際交流。会員のみでなく、一般市民も。
- ・国際交流協会の横つながり必要。
- ・NPO法人の連携の交流。

- (1) 知識・技術を伝える
  - ①人材登録と活用
  - ②市政出前講座の充実

### 3. 教えあい学びあう

- (2) 教えながら学ぶ
  - ①市民のための講座

- 出前講座。身近な知識。マイナンバー。
- 出前講座の活用、工夫。広報年1回、12月号。
- 交通安全5,675人。25年度139回。課題。内容。人気のある「講座」。
- 講座を受けた人。やりたい人。アンケートを取り新しい講座を開く。
- 出前講座。夜やって欲しい。
- 人材登録の見直し。(190名登録)。PR。3年に1度見直し。
- 市ホームページで人材登録をPR。
- 人材活用。登録しませんか。⇒町内会、自治会
- 生涯学習センター。金谷、川根わからない。
- 生涯学習の情報偏っている。
- 自分の欲しい情報がこない。
- 人材不足。求人さしても来ない。18歳以上県外へ。
- 市民のための講座。(金谷宿。生涯学習センター) 企画運営は？
- 新しく学びたい人を集める。生涯学習の方法。
- 知識、技能を持っている人の発掘。
- 高齢者の技術を伝承。

- 地域のなかでどのようにやっていくか。内容の再編成が必要。10年前とは違う。
- 『支援』という表現ではなく、『応援』という言葉にしたらどうか？
- 無償ボランティア、有償ボランティア。それぞれの問題点がある。整理してあげることが必要。
- 応援する仕組み⇒ボランティアが広がっていくのではないか。
  - ・支援する人⇒主体は不明である。ほめる仕組みがほしい。
  - ・ボランティアの育成むずかしい。
  - ・島田市民のどのくらいの人がボランティアをしているか？何団体あるのか？
  - ・島田市のボランティア活動って、どんなものがあるの？
  - ・ボランティア何があるのか？できることは何か？PRが必要。
  - ・ボランティアにスポットライトあっているか？（評価）
  - ・ボランティア団体を知る、把握する、物や組織がない（サイトをつくるのが望ましい）
  - ・『ボランティア』の解釈をどう考えるか？（文字ではわからないところがある）
  - ・子育て支援のボランティアをして、9年。ボランティアとしていかされています。
- コミュニティという表現はわかりにくい。使い方に注意。『つながり』や『交流』という言葉に置き換えるともっと伝わりやすい。
- コミュニティの変化。『コミュニティの活動と推進』全域統一はムリがある。
- 地域の公会堂を活用する方法もある。世代によって、使いたい施設がちがう。施設を知ってもらい、使いやすいやメリットを知る。ムダに気がつく。
- ・コミュニティ支援の取り組みがなかった。コミュニティの変化。
- ・コミュニティの意味の周知不足。
- ・地域にコミュニティない。
- ・幼児から高齢者まで参加できる（しやすい）コミュニティが必要（ラジオ体操など・・・）
- ・組長さんの役割を地域のみんなが知らない。知らない人が多い。しらなければ。
- ・地域リーダーの育成は必要。
- ・地域リーダーってなんだ？
- ・地域のリーダーを行政でやっているのか？
- ・地域リーダーの育成方法って？
- ・リーダーの養成方法って？
- ・リーダー養成はだれがする？
- ・施設のことを知らない。学校施設のメリットを活かす。公共施設マネジメント。
- ・公民館と地区の公会堂 あいまい。
- ・使い勝手をよくする。
- ・社会教育施設の使命があいまい。
- ・公会堂活用していない。
- ・小中学校の施設の開放は大綱を作った時代と今はちがう。
- ・地域施設ってこのこと？⇒学校

(1) 社会貢献

① ボランティア活動の支援と育成

1. 地域の活性化

(2) コミュニティ活動の推進

- ① コミュニティの編成と交流
- ② 地域リーダーの養成
- ③ 地域施設の充実と活用

■課題ではなく、良いところを見つける。

■地域を好きになる。

■島田が好き⇒住みたい。

■地域の魅力発見（100個）⇒好きになる。

■『地域への関心を高める』

⇒何をしたいのか？どうしたいのか？

⇒好きになってもらう。住み続けてもらいたい。

⇒生涯学習を発展させていきたい。

■地域間の交流。年1回の子どもを中心にした大交流会（団体を超えた交流）

・市民学級ってなに？

・市民学級のネーミングを作るとよい（親しみやすい名前にする）

・市民学級、習い事になっている？

・地域診断は何を対象？

・診断はだれがするのか。

・診断はだれが？

・地域診断は何のこと？誰がやるのか？

■『地域の歴史』⇒地域の成り立ち。身近な所から地域を知ってもらう。（橋の名前など）

■表現直していく。

■表現方法を変える（生涯学習）・関心を持つものを探す。

■主語を市民に。（主役主体があいまい）

・『行動する』もって何かあるのでは？

・こうなりたい良い所を見つける。

・地域のつながり減ってきた。関心が薄くなっている。

・関心を高めるとどうなるか？

・関心を高めると生涯学習につながるから分らない。

・住み続けるために好きになる。

・市民がやること、市がやること。

・自然体験施設とは？

・地区の特色を活かす。

・公園…不審者、危ない、遊具がない

・公園でイベント。

・駄菓子屋さん

・子どもの時から集まって、楽しむ⇒大人になってからも。

・地域のまつり

・イベント増えると参加者が減る。

・地域ごとの活動が広がっていく。

・子育て支援は市で開催していることなの？

・普段の大人と子どもつながり。

・モテルの事業をやってみる。年1回大交流会。子ども、親、シニア、島田市住民

(1) 地域の課題を見つければ行動する

①地域診断の実施

②市民学級の育成

(2) 地域の歴史と文化を守り伝える

①地域の歴史と文化の学習

②芸術文化活動の支援

29 地域への関心を高める

6

(3) 自然を大切にす

①暮らしと環境を学ぶ

②自然体験施設の充実

(4) 学校と地域の連携

①学校教育への地域の人の参加

(5) 子育て支援

①地域子育て相談の充実

### 3. 住みやすいまち

- (1) 安全で安心な地域  
①防災・防犯講座の実施

- 楽しい防災訓練を実施。
- 防災訓練をみんなが参加したくなるイベントにする。
- ・防災訓練をもっと楽しく(交流)
- ・110番の家ツアー(六合東小で行っている)
- ・通学路の確認。学校と保護者はやっている。

<p>1. 学習環境を整える</p> <p>(1) 学習の場の整備          ①公共施設の効率的な活用          ②生涯学習拠点の整備充実          ③スポーツ施設の整備充実          ④図書館の充実          ⑤施設使用料の軽減</p> <p>(2) 学習機会の提供          ①金谷宿大学の活用          ②しまた楽習の活用</p>	<p>利用が少ない。金谷中の地域連携室の利用を増やす取り組みは??</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校の空き教室開放のPR不足。</li> <li>• 学校空き教室の利用。</li> <li>• 学校開放事業 あまり周知されていない。</li> <li>• 図書館の利用促進対策は?</li> <li>• 施設利用料の見直し。</li> <li>• 使用料 おおるり全て有料になった。</li> <li>• 藤枝市…利用料も安い。学校区ごとに交流センターが設置されている。</li> <li>• 財政的にされから軽減は難しい。</li> <li>• 川根地区の児童クラブと高齢者の居場所づくり</li> <li>• 地域の実情に応じて、放課後児童クラブ・高齢者の居場所づくりに活用。</li> <li>• 市街の中心部の地域活性化のため、中央公民館が必要。</li> <li>• 市街の方はコミュニティが希薄。</li> <li>• ローズアリーナ、リパティの整備など、スポーツ施設充実してきている。</li> <li>• 川根家山中心地区にスポーツ施設がない。</li> <li>• 人口の減少。施設の老朽化に伴い、施設の統廃合が必要。</li> <li>• 統廃合によって、身近な施設が利用できなくなってしまう。</li> <li>• スポーツ広場の管理を自治会に活用したい。</li> </ul> <p>• 自主活動への展開。金谷宿大学、楽習センター。          • 講座の見直し。自主活動への働きかけ。</p>
<p>2. 人材の育成</p> <p>(1) 指導者の育成          ①人材の発掘          ②研修会・学習会の充実          ③生涯学習インストラクターの育成</p>	<p>若い人たちのコミュニティへの参加⇒地域リーダーへ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域区分の見直しをしてコミュニティの拡大を図る。</li> <li>• 子どもの時から、地域のリーダーを育成する取り組みが必要。</li> <li>• 青年団がない。消防団員も減少。この中で地域のつながりを深める。</li> <li>• 団塊の世代の活用。</li> <li>• 子ども会の行事が少なくなっている。</li> <li>• 自治会の役員のなり手が少ない。</li> <li>• 30歳の成人式を拡大する。</li> <li>• 18歳の流出をくいとめる施策が必要。</li> <li>• インストラクターの育成、とアドバイザーの違いは?</li> </ul>
<p>3. 情報の共有</p> <p>(1) 情報の収集と発信          ①地域の学習要望の把握          ②生涯学習情報の発信          ③情報コーナーの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 異なる世代によるワールドカフェの開催。</li> <li>• 生涯学習をもっと気軽に楽しみたい。</li> <li>• 地域の生涯学習の実情は?</li> <li>• 生涯学習とは何か? 基本的なところから学ぶ。</li> <li>• 生涯学習に関するアンケート調査の実施。</li> <li>• 人材登録が活用されない環境にある。</li> </ul>



<p>4. 支援体制の整備</p> <p>(1) 推進体制の確立 ① ネットワークの構築</p> <p>(2) 推進状況の把握 ① 生涯学習推進協議会の検証</p> <p>(3) 相談機能の充実 ① 生涯学習アドバイザーの活用 ② 生涯学習総合案内窓口の設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 支援体制ができていない。</li> <li>• 世代に合わせた情報の発信をするべき。</li> <li>• 学びたいけど、学べない人が多い。その人たちにアドバイスできる人がほしい。</li> <li>• 生涯学習について、アドバイスするコンシェルジュの設置。</li> <li>• 学習センターに生涯学習案内窓口を設置。</li> <li>• 各地区にコンシェルジュ必要。</li> </ul>
---	--